

平成29年全国学力・学習状況調査の結果の概要と今後の対策について

平成29年10月

4月に実施した小学校6年生を対象にした本年度の全国学力・学習状況調査の結果が届きましたので、下記のとおり結果の概要と今後の対策についてお知らせいたします。

学校では、この結果についてさらに分析・対策等を検討し、児童がそれぞれの力を発揮し、確かな学力がさらに身に付きますよう、今後の学習指導の工夫改善を進めていきます。

調査の対象は、6年生でしたが、出題内容は1年生から5年生までの学習内容であり、また、基本的な生活習慣や学習態度など、小学校でその基礎を身に付けなければならないものが多くありました。ご家庭でもお子様の調査結果や課題等をご確認いただき、今後の学習や生活習慣の向上に役立てていただきますようお願いいたします。

※ この結果は、調査のあった時点での国語、算数の1回だけのテスト結果です。すべての学習状況を表しているわけではありません。この結果を受け、自分のよかったところ、よくなかったところを見直し、今後の学習の参考にしてほしいと思います。学校としても指導方法の工夫改善に生かしていきます。

※ 問題等の詳細は、文部科学省及び熊本県教育委員会のHPを参照してください。

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査問題について

国語（A、B）と算数（A、B）の4つの内容の調査でした。

A問題（主として「知識」に関する問題）は、これまでの学習内容をしっかりと身に付けているかどうかをみる基礎的・基本的な問題であり、B問題（主として「活用」に関する問題）は、これまで学習した内容を国語や算数以外の学習や実生活の中で活用できるかどうかをみる問題です。

3 本校の学力状況について（概要）

(1) 国語Aについて（基礎的・基本的な内容～主として「知識」に関する問題）

国語Aについては、全体として、全国平均とほぼ同じ（僅かに下回る）結果でした。領域としては、「話すこと・聞くこと」が全国を上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を僅かながら上回っていました。ただ、「書くこと」が全国を下回り、「読むこと」については、全国を大きく下回っていました。

特に、グループでの話し合いを通して、自分たちが見つけた俳句のよさを適切に捉える「読むこと」の問題があと一歩でした。6年生では、俳句や短歌の指導を行います。情景や作者の思いなどについて感じたことを交流する場を適切に設定し、自分が想像したことを広げたり、深めたりするなどの指導を工夫し、「読むこと」の能力を高めていきます。

(2) 国語Bについて（学習したことを活用する内容～主として「活用」に関する問題）

国語Bについては、全体として、全国平均を下回る結果でした。領域としては、「書くこと」が全国を上回っていました。「読むこと」は全国を僅かに下回り、「話すこと・聞くこと」については、全国を大きく下回っていました。

特に、話の構成を工夫して話したり、聞き手の反応を見て話したりすることができるなどのスピーチメモのよさを捉えることができるかどうかをみる「話すこと・聞くこと」の問題があと一歩でした。国語の授業はもとより、様々な発表の場で、目的や意図に応じて、内容が聞き手に明確に伝わるように、話の構成を工夫した発表原稿などを作成させ、それを活用して話す機会を設定するなどの指導を工夫し、「話すこと・聞くこと」の能力を高めていきます。

(3) **算数A**について（基礎的・基本的な内容～主として「知識」に関する問題）

算数Aについては、全体として、全国平均とほぼ同じ（僅かに下回る）結果でした。領域としては、「量と測定」が全国を上回っていました。「図形」については、全国をやや下回っており、「数と計算」「数量関係」は、全国を下回っていました。

特に、1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるかどうかをみる「数と計算」の問題があと一步でした。この学習内容は、第5学年のものですが、小数の乗法の計算はできても、数量関係を図や数直線などに正しく表すことは苦手とする内容のようです。今後、算数の授業で、問題場面を的確に捉えさせ、図や数直線、式などを用いて思考を整理させるなど、確かな理解となるように指導を工夫し、「数と計算」の能力を高めていきます。

(4) **算数B**について（学習したことを活用する内容～主として「活用」に関する問題）

算数Bについては、全体として、全国平均を下回る結果でした。領域では、「量と測定」が全国平均を僅かに下回り、「数量関係」「数と計算」「図形」が全国を下回っていました。

特に、料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを、言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる「数と計算」の問題があと一步でした。この学習内容は、第2、3学年のものですが、日常生活の問題解決のために、児童自らが様々な情報を整理した上で、条件に合う必要な情報を選択させ、数学的に処理していく場面を設定したり、多くの問題練習に取り組ませるなどの指導を工夫し、「数と計算」の能力を高めていきます。

4 本校の学習や生活のアンケート調査結果について

基本的な生活習慣に関すること、家庭学習や学習に関すること、生活に関すること、地域行事への参加、本調査の内容など92項目について質問調査がありました。

全国及び県と比べて、特徴的なものをご紹介します。

(1) **よかったところ**・・・今後もしっかり伸ばしていきます。

- ①基本的な生活習慣が定着している。（朝食、早寝、早起き、但し、テレビやゲームの時間には個人差がある）
- ②自分には、よいところがあると思っている。また、教師は、児童のよいところを認めていると思っている。（自己肯定感）
- ③積極的に授業（話し合い活動、発表、ノート整理）に臨んでいる。（学習意欲）
- ④学校のきまりを守っている。（規範意識）
- ⑤人が困っているときは、進んで助けている。（人間関係）
- ⑥地域社会などの地域の行事やボランティア活動に参加している。また、家の人も、授業参観や運動会などの行事によく参加している。（地域・学校行事への参加）

(2) **考えて欲しいところ**・・・改善を図ります。

- ①読書をする時間がとても少ない。読書をしない児童も多い。（読書活動）
→ 学校評価でも同じ傾向でした。市配置の司書の協力を得ての図書室の環境整備や図書委員会の活動と連動した読書活動（おすすめ図書の配置、読書ビンゴゲームなどの読書意欲喚起）朝の読書の充実、読み聞かせの協力等の取組を進めているところ です。
- ②家庭学習の時間と内容に個人差がある。宿題はほとんどの児童が行っているが、教科書などを用いて進んで復習や予習をするなどの自主的な家庭学習には個人差がある。また、ほとんど家庭学習をしない児童もいる。（家庭学習）
→ 「10分×学年+10分」以上の家庭学習の定着とその内容の質の向上を進めているところ です。毎月、生活アンケートを行い、その定着を指導に生かすとともに、学習内容については、基礎・基本定着の時間「チャレンジ10」の内容を参考にさせるなどの取組を今後進めていきます。また、4月にご家庭に配付した「家庭学習の約束」（本校HPでも掲載）を参考にしてください。

引き続き、児童を認め、ほめ、励まし、伸ばし、児童に自信と笑顔を増やす平井小の教育活動を進めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。
お子様の学習や生活などについて、お困りやお尋ねなどがありましたら、遠慮なく学校（担任、または教頭等）までお申し出ください。よろしくお願い申し上げます。